



平成 27 年 12 月 15 日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 信元 久隆  
 (コード番号 7238 東証第一部)  
 問合せ先 経理部長代行 荘原 健  
 (TEL. 048-560-1501)

平成28年3月期 第2四半期連結累計業績予想と実績値との差異、  
 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成27年5月7日に公表いたしました平成28年3月期の第2四半期連結累計期間の予想値と本日公表の平成28年3月期第2四半期連結累計期間の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績の動向を踏まえ、通期連結業績予想につきましても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成28年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	142,300	1,200	500	△900	△6円77銭
今回実績 (B)	141,605	△450	△1,428	△5,774	△43円41銭
増減額 (B - A)	△695	△1,650	△1,928	△4,874	—
増減率 (%)	△0.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	123,122	3,722	3,460	920	6円92銭

2. 平成28年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	288,000	6,500	4,800	1,500	11円28銭
今回修正予想 (B)	283,000	△3,500	△6,000	△7,000	△52円62銭
増減額 (B - A)	△5,000	△10,000	△10,800	△8,500	—
増減率 (%)	△1.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	254,157	4,004	2,833	△6,095	△45円83銭

### 3. 差異および修正の理由

#### (1) 平成28年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異

##### 連結売上高および営業利益

連結売上高はほぼ期初計画どおりの実績となりましたが、営業利益については、一部収束に向かっているものの米国内における昨年下半年以降の生産混乱が長引き、ケンタッキー州のエリザベスタウン工場（以下、ABE）以外の生産拠点でも労務費や多額の緊急輸送費などの追加費用が発生したため、大幅な営業損失となりました。詳細については以下のとおりです。

期初計画におきまして、ABEは昨年下半年からの生産混乱を、日本からの設備保全支援、設備の追加・増強、他拠点への生産移管などの対策を講じることにより、今上期で収束し今下期から正常生産体制にすることを目指してまいりました。しかしながら、市場の拡大を受けた受注量の高止まりもあって人員の削減が計画どおり実行できておりません。

同州のグラスゴー工場（以下、ABG）においても、ディスクパッドの受注が昨年末より急増し、生産が追いつかず一部ラインでは3直7日（週7日、1日24時間体制）の稼働を継続せざるを得なくなり、それに対応するためパッド生産ラインを5月から1ライン増設しましたが、生産が追いつかず、休日の出勤などによる労務費、生産逼迫による空輸等の緊急輸送費などの追加費用が継続して発生しました。

サウスカロライナ州のコロンビア工場（以下、ABCS）においては、新規獲得したビジネスの立上げ数量増加もあり負荷が増大した為、一部生産設備（アルミ鋳造設備）の故障が発生し、稼働率が著しく低下したことにより、出荷が遅れ空輸等の多額の緊急輸送費など追加費用が発生しました。

以上の結果により、米国の期初の上期計画営業損失見通し12億円が42億円と拡大いたしました。メキシコを含む北米地域セグメントとしましては、44億円の営業損失となりました。

##### 特別損失

特別損失は、北米におけるリコール関連損失（平成27年6月12日「米国GM社向け製品の不具合について」にて公表）で、自動車メーカーからの市場回収に係る費用を見積もり、6億円計上いたしました。

また、米国のABEが前期に続き受注が増加し生産混乱の収束が遅れ、収益性が改善されず減損の兆候が認められたことから、将来の回収可能性を検討した結果、当第2四半期累計期間において、当工場が保有する固定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、16億円を減損損失として計上いたしました。

#### (2) 平成28年3月期 通期連結業績予想数値の修正

##### 連結売上高および営業利益

###### ● 北米

完成車メーカー各社からの受注は、市場で人気の高いライトトラック向けのディスクブレーキ、および補修品を中心に、上期に引き続き生産能力を超えて推移することが見込まれております。従来の問題に関しては、種々対策により沈静化に向かっており、一部経費の削減に繋がっている他、完成車メーカーからの一部価格適正化も実現させ、加えて生産性も改善されてきております。然しながら、下期においてその増加する受注に対して生産対応が充分とはいえず、設備故障の影響が残るABCSも含め、休日出勤の残業を含む労務費や空輸等の緊急輸送費を中心とした追加費用の発生が継続する見通しで、期初計画に対して予想数値を大きく下回る見込みです。

###### ● 日本

売上高は、国内需要の低迷、中国市場の減速の影響もあり国内生産量が減少することが予想され、自動車部品は期初計画を若干下回る見込みですが、今後伸張が期待される産業機械・鉄道においては計画どおりを予定しています。一方利益面では、原材料市況・エネルギー価格の下落、業績連動による賞与等の人件費の減少、経費の削減、産業機械・鉄道の利益増等により、期初計画を上回る見込みです。

###### ● 欧州

売上高は、パッド、ディスクブレーキとも期初計画を下回る見込みですが、販売価格の一部値上げを獲得したこと、更に、生産工程の改善効果などにより営業損失は期初計画から若干改善される見込みです。

###### ● 中国

中国においては、国内経済の成長が減速しているものの、日米の完成車メーカーからの受注拡大の影響で、売上高、営業利益とも期初計画を上回る見込みです。

###### ● インドネシア

インドネシアでは、上期に引き続き経済の停滞と燃料の値上がりもあり国内市場の低迷が継続し受注が減少したことにより、売上高、営業利益とも期初計画を下回る見込みです。

## 特別損益

平成27年11月4日付「投資有価証券売却益（特別利益）の計上に関するお知らせ」のとおり、平成27年10月末までに当社が保有する投資有価証券の一部を売却したことにより、第3四半期に投資有価証券売却益約33億円を計上する見込みであり、今期末までにさらに政策保有株式の一部売却を予定しております。

### ※ 通期連結業績予想の期間は

- ・北米・中国・タイ・インドネシア：平成27年1月～平成27年12月
- ・日本・欧州：平成27年4月～平成28年3月 となります

<米国生産混乱収束に向けての今後の対応>

増産対応による生産混乱に関連して想定外の追加費用が発生しておりますが、その収束に向けて設備投資も含む様々な対策を策定しており、現在以下の施策を着実に推進しております。

#### ・ ABE

老朽化した設備の更新及び増設を継続的に実施している他、生産工程の改善をすることにより、設備稼働率を改善し、肥大化した現行の生産人員数の低減を進めます。同時に、生産品目（ディスクブレーキ、ドラムブレーキ、ディスクパッド）毎に工場長、コストコントローラーを配置し、責任分担を明確にし管理を徹底することにより、利益の出す生産体制の構築に努めており、ドラムブレーキおよびディスクパッドについては、改善効果が出始めています。

#### ・ ABG

設備の稼働率向上に向けて、日本からの設備保全などの支援とともに、現地での人員の確保に向けて手を打っています。又、過剰な生産負荷を軽減する為に、最終消費地が北米以外（アジアなど）の受注製品については、日本（曙ブレーキ山形製造）とタイの生産拠点に一部生産を移管するなどグローバルネットワークを活用し、来年中には正常な生産体制に戻します。

#### ・ ABCS

緊急輸送費増加の要因ともなっているアルミ鋳造設備の故障については、1基は9月に復旧しており、今後徹底的に保守修繕を実施し完全復旧の目処づけをするとともに、来年4月にはアルミ鋳造設備を1台増設して、今後の更なる増産に対応し、通常生産体制に移行します。

#### ・ 各拠点

製品別収支、在庫管理、債権債務管理の一括管理の「見える化」を進め、数値管理の徹底を図る為、2016年前半には全工場での新ERPシステムの稼働が完了する予定です。

米国での生産混乱を収束し早期に正常化を図ることは、当社グループの最優先の経営課題と捉え、日本を含め経営のリソースを最大限に投入してまいります。

なお、以上の諸施策実行に加えて、ガバナンスの強化も含めた北米経営体制の抜本的な改善計画を策定中であり、完成次第公表いたします。

参考：【地域別の第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異】

(単位：百万円、%)

	売上高					営業利益				
	前回予想	今回実績	増減	増減率	為替影響	前回予想	今回実績	増減	増減率	為替影響
日本	42,400	41,910	△ 490	△1%	—	1,000	1,877	877	88%	—
北米	83,600	83,762	162	0%	334	△ 1,400	△ 4,350	△ 2,950	—	△ 17
内 米国	83,300	83,449	149	0%	333	△ 1,200	△ 4,175	△ 2,975	—	△ 17
内 キョコ	300	313	13	4%	1	△ 200	△ 175	25	—	△ 1
欧州	5,100	4,850	△ 250	△5%	11	△ 500	△ 307	193	—	△ 1
中国	9,500	9,246	△ 254	△3%	△ 306	700	975	275	39%	△ 32
タイ	3,100	3,408	308	10%	△ 47	200	336	136	68%	△ 5
インドネシア	8,600	8,333	△ 267	△3%	90	1,000	837	△ 163	△16%	9
連結消去	△10,200	△ 9,905	295	—	—	100	183	83	83%	—
連結 計	142,300	141,605	△ 695	0%	82	1,200	△ 450	△ 1,650	—	△ 46

参考：【地域別の通期業績予想】

(単位：百万円、%)

	売上高					営業利益				
	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響
日本	87,000	83,200	△ 3,800	△4%	—	3,200	3,500	300	9%	—
北米	165,600	167,050	1,450	1%	1,681	△ 200	△10,400	△10,200	—	△ 105
内 米国	164,900	166,400	1,500	1%	1,675	200	△10,100	△10,300	—	△ 102
内 キョコ	700	650	△50	△7%	7	△ 400	△ 300	100	—	△ 3
欧州	10,900	10,800	△ 100	△1%	△175	△ 1,200	△ 950	250	—	15
中国	20,300	19,250	△ 1,050	△5%	△ 750	1,800	2,100	300	17%	△ 82
タイ	6,400	6,000	△ 400	△6%	△ 289	500	500	—	—	△ 24
インドネシア	18,400	16,900	△ 1,500	△8%	△ 186	2,200	1,500	△ 700	△32%	△ 16
連結消去	△20,500	△20,200	300	—	—	200	250	50	25%	—
連結 計	288,000	283,000	△ 5,000	△2%	282	6,500	△ 3,500	△10,000	—	△ 212

為替レート (前提)	USD	EUR	CNY	THB	IDR
前 回 予 想	120.0 円	135.0 円	20.0 円	3.7 円	0.0092 円
今 回 予 想	121.2 円	132.9 円	19.3 円	3.5 円	0.0091 円

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上